

Can't See The Forest For The Trees

Enoshima Art Festival selected artist

アートを探す散歩道

江の島芸術祭を彩る作家 12 名による約 2 ヶ月間の屋内外展示。
島の森にひっそりと佇む空間を、アートで明るく照らします。

Indoor and outdoor exhibition during 2 months
by 12 artists who enliven the Enoshima Art Festival.
Art will illuminate a space quietly nestled in the forest of the island.

会期：2025.5.10 sat. - 2025.6.1 sun. コッキング苑内（他）
PREVIEW SHOW 2025.4.12 sat. - 2025.4.23 wed. UMIYAMA GALLERY
9:00 - 20:00（最終入場 19:30）* 入場無料
*17 時以降に出場する場合は 500 円の入場料が必要となります。

会場：UMIYAMA GALLERY
〒251-0036
神奈川県藤沢市江の島 2-3-28(サムエル・コッキング苑内)
in Samuel Cocking Garden,
2-3-28, Enoshima, Fujisawa, Kawanaga

キュレーター：石川直也 Naoya Ishikawa



アーティストツアーのご案内

江の島アートフェスティバル アーティストツアーを開催いたします。
作家（約5名）が作品を解説しながら
ご参加の皆さまと一緒にサムエル・コッキング苑内を巡ります。

|| 日時：2025.5.10（土） 13：00 - 15：00

|| 集合場所：サムエルコッキング苑 入り口前

|| 参加人数：制限なし

（募集人数が想定より増えた場合には制限する場合があります）

|| 参加費：無料

小雨天決行。

荒天の場合は中止といたします。

中止の場合は、前日にInstagramにてご案内いたします。

参加希望のお客様はキュレーター：石川直也氏の
Instagramアカウント (@ishikawa_naoya_sculptor) へ、
DMにて参加人数とともにお知らせください。

|| 石川直也 Instagram URL:

https://www.instagram.com/ishikawa_naoya_sculptor/

〈 展覧会概要 〉

展覧会タイトルの "Can't see the forest for the trees." (= 木を見てる時は森は見えない、逆に森全体を見ている時は木は見えていない) は、日本のことわざ"灯台下暗し"の英語表現です。江の島シーキャンドルは展望台として、多くの国内外の観光客や地元住人に親しまれている灯台です。(実際の由来は照明具の燭台) その下のコッキング苑での展示であること、観光場所の多い江の島ではアート作品はあまり意識されていない存在であることから、「近くにある物事を見落としたり、認識しにくい」という意味から、アートに目をむけてみるのはどうかという想いを込めました。

キュレーター； gallery Gigi 石川直也

石川直也 Naoya ISHIKAWA

「彫刻とは何か」との問いに対して、大理石という素材と向き合い、彫刻単体では立つことの出来ない人体彫刻「自立しない人」などの探求を続ける。数年前林に作ったアトリエは、自分一人では平らな地面すら作れず、彫刻が立つことは不可能な土地だった。そこで初めて生まれた「自立しない人」は自身が初めて自然と思えた彫刻だった。この彫刻は、自立とは様々な関係性の中にあり、自立しないことは豊かなことでもあると教えてくれた。



小野久留美 Kurumi ONO

自然の摂理である「変化」と、物事を永遠に留めておきたいという人間の「保存」に対する渴望の可視化に興味を持ち制作を続けている。「写真を土に埋める」という手法によって、流転する世界の一場面を留めたはずの写真は土中の水分や菌類などによってその姿を変えていき、土中から顔を出した作品は全て異なる表情を見せる。

翁素曼 WENG SUMAN

主に木材を素材として用い、彫刻を中心に構成されている。

テーマとして人物を扱うことが多く、個人的な感情や社会的な観察を表現している。

その中でも特に「開く」という行為に関心を持ち、開くことができる作品を多く制作している。



加治佐郁代子 Kayoko KAZISA

都市から離れた森の中で自立した暮らしを試みている。

自然との対話と共生から造形を生み出し、人が自然の中に在るということを考えていく。

江の島の太陽の光で、編みこまれた真鍮は森の木漏れ日のようにきらきらと控えめに輝いて、鹿皮紙の風車は森を駆ける鹿のように江の島の風で戯れる。そんな景色を江の島の空に描きたいと思った。

齋藤寛之 Hiroyuki SAITO

「サイクル」「浮遊感」「多様性」をキーワードとし、同じ行為を繰り返しつつ変化するもの、地表にわずかな接点しか持たない不安定なもの、既存の物に手が加えられ価値感が変わるものなどに焦点を当て制作活動をしている。移りゆく時代の中で、変化し続ける世界、天変地異を、個人的な体験をすりあわせて「世の中の動きや精神の揺らぎ」をテーマに様々な素材、手法を用いて作品に落とし込んでいる。



武田哲 Tetsu TAKEDA

1986年から2010年までニューヨークを拠点に作品を発表。

現在は神奈川県で制作活動を続け、国内外で作品を発表している。近年は、自己の意図や作為によるコントロールを離れた制作スタイルにシフトし、浜辺の漂着物や廃材などを、素材とした立体作品、写真、ペインティング、ドローイング作品など制作。



竹野優美 Y u m i T A K E N O

主に日本の石を用いて景色や動物の彫刻を制作している。

近年では石の写真を転写し、そこにペインティングを施す独自の技法を用いて、その土地の石を使いその土地の風景を転写するような、土地に根差した表現もみられる。

園田将久 M a s a h i s a S O N O D A

木を使ったインスタレーション作品をメインに制作を行っている。

私はアトリエや家で必要になった道具や家具を作ることから制作を始める。

それらを作るなかで水平や垂直について考えるようになり、ここ数年は水平垂直に着目した作品を制作している。



野畑常義 T s u n e y o s h i N O B A T A

身の回りの人々や生物、街、などをモチーフに彫刻、ドローイング、コラージュなどを制作。近年は主となる彫刻作品の素材に建築資材、古紙、接着剤などを独自にブレンドした強靱な粘土 - メディウムを使用している。

目にみえる形と見えない形を同時に存在させながら、意識の反映としての世界を形作る。

山本恵海 M e g u m i Y A M A M O T O

石という素材は日常の中で馴染みは薄いですが、誰かの隣にそっといられる存在でありたいという思いから”暮らしに寄り添うかたち”をテーマに石で制作活動を行なっている。

部屋の片隅に置いてある花瓶や入れ物、読みかけで寝転んでる本、コンクリートの割れ目から控えめに芽生える雑草のように。せわしい生活の中で、見えるものだけにとらわれない、目には見えない何かを感じられるような彫刻作品を作っている。



吉田愛 A i Y O S H I D A

日本画をベースにさまざまな表現方法で制作している。植物や鉱物など自然物に触れ合いながら素材を尊重し、表現したいイメージに合わせて作品の形を変えていく。欲の通りに表現する為には、素材を知らなくてはならない。主宰している風と遊ぶ集団“風 collective”も、風と遊ぶ事をテーマに様々なジャンルの作家達が作品を大空に飛ばしていく。風を待ち、風の流れを学び、現場で感じて知ることで作品が飛んでゆく。そこで学んだ“待つ・学ぶ・感じる・知る”という姿勢を大切に日々制作を行なっている。

ロイ・タロウ R O Y T A R O

絵画と詩による制作を行っている。作家が描くのは風景であり、太陽が緑色に輝く世界を描いている。詩という言葉記号をイメージに転換し、そこに既存の神話、身の回りの自然環境、地域文化をリサーチを加え絵画を制作する。

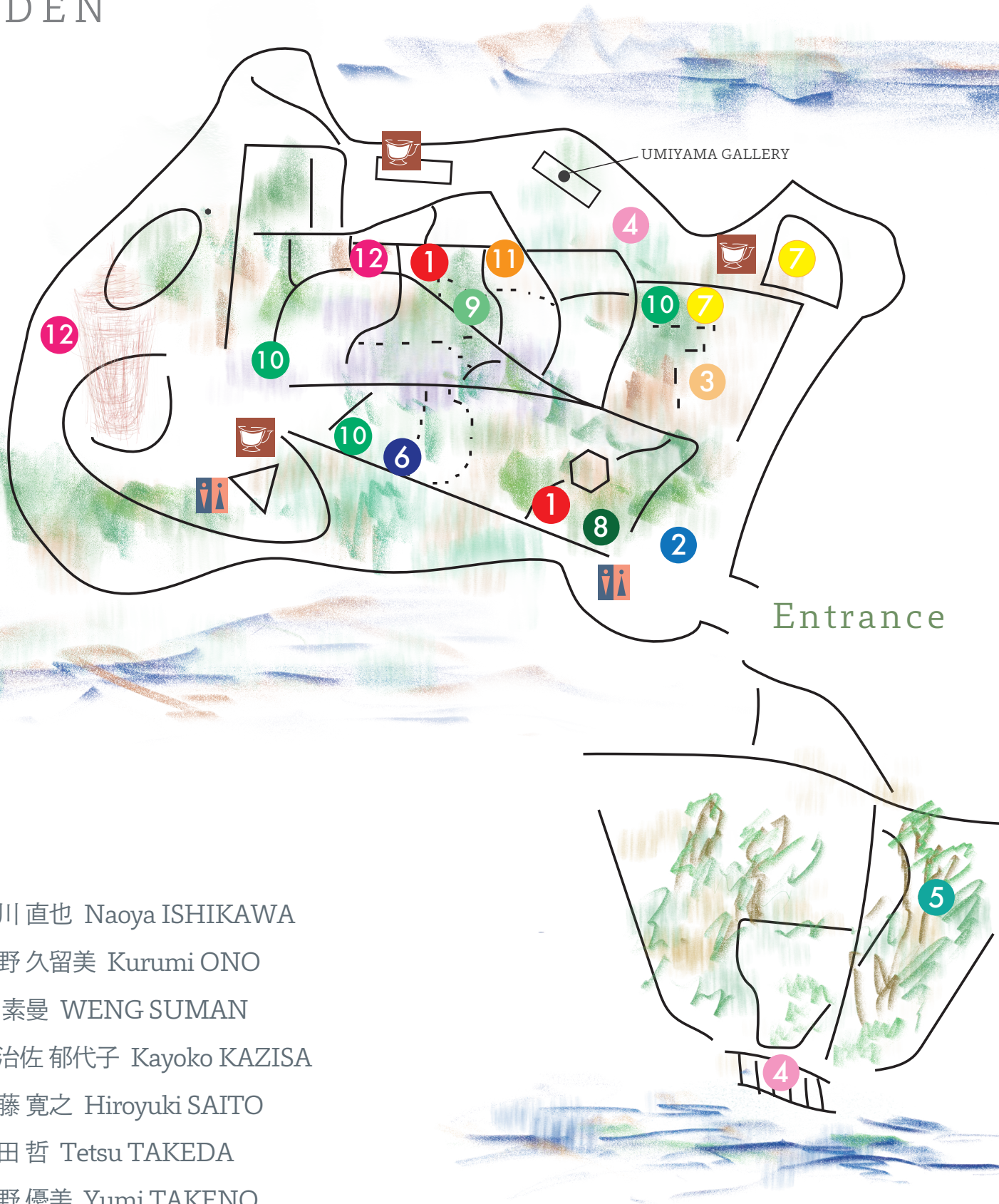
大学最終年次に、ミクロネシアのヤップ島を訪れる。南の島の大自然の中で島民と暮らしたことをきっかけに、自分が進む道はアートだと考えるようになった。2017年から写真と詩、2018年より絵画の制作を行う。



各 作 家 情 報

Artists WEB SITE/SNS

SAMUEL COCKING GARDEN



- ① 石川直也 Naoya ISHIKAWA
- ② 小野久留美 Kurumi ONO
- ③ 翁素曼 WENG SUMAN
- ④ 加治佐郁代子 Kayoko KAZISA
- ⑤ 齊藤寛之 Hiroyuki SAITO
- ⑥ 武田哲 Tetsu TAKEDA
- ⑦ 竹野優美 Yumi TAKENO
- ⑧ 園田将久 Masahisa SONODA
- ⑨ 野畑常義 Tsuneyoshi NOBATA
- ⑩ 山本恵海 Megumi YAMAMOTO
- ⑪ 吉田愛 Ai YOSHIDA
- ⑫ ロイ・タロー ROY TARO